

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月30日

事業所名 はつかぜ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	60%	40%	2019年度に事務スペース、倉庫機能、相談室などを別スペースに移動し、支援スペースを拡張した。	新型コロナ感染予防の為、密を避ける必要があり、もう少し広いスペースが必要だと認識している。移転も含め現在検討中である。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基準よりは多い職員配置をしており、ほぼマンツーマン支援をしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	60%	40%	重症児デイサービスなので臥位で過ごす児童も多く、クッション性の良いマットを敷きつめたり、リラクステアを利用するなど、長時間でも過ごしやすい環境にしている。	車いす用トイレが無いのが課題である。車いす用トイレの設置に関しては、根本的に事業所の場所を変更しないと設置が不可能な為、検討を続けている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	90%	10%	支援室には、心地よいマットを敷き、リラクステアを4台導入し、過ごしやすい環境になるよう心掛けている。	トイレや水回りにもう少し空間が必要だと認識しています。もう少し広い場所への移転を検討しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	常に全ての職員と話し合いながら業務改善に努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者による事業所評価は毎年行っており、結果はホームページに公表している。また面談形式でモニタリングを行っており、その際も保護者の意向をお伺いしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	1年に1回、自己評価、保護者評価を行い、検討結果をホームページで公開している。また保護者会でも報告している。	今年度は7月に保護者会を開催した際に2020年度の評価結果を報告した。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	80%	現在外部評価は受けていない。	必要であれば実施する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	事業所内研修を年6回実施している。また外部の研修や研究会に積極的に参加している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	基本的に6ヶ月に1回モニタリングの懇談を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染が落ち着いている時は対面で懇談を中心に、感染が拡大している時は電話での懇談を中心にモニタリングを行いニーズの把握に努めた。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	重症心身障がい児に合った標準化されたアセスメントツールはなく、独自のものを使用している。	アセスメントツールは内容に合う標準化されたものが見つければ使用したい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	支援計画には「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目に分けた目標を立てており、かなり具体的な支援内容を記載している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	計画作成後は職員全員に回覧、周知した上で日々の支援を行っている。6ヶ月後のモニタリングで各項目の達成度を検証し、計画の見直しを行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	毎月のスタッフ会議で2か月前のプログラムを立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	様々なプログラムを提供しているが、幼児向け導入プログラムは月間プログラム、全員に毎日提供しているプログラムは週間プログラムにしている。重心児は毎回変わるプログラムより、少し継続する方が反応を引き出しやすいと思う。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	個別の課題に対しては支援計画に上げて随時実践している。集団での活動は毎日のプログラムで実践している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日昼礼を行いその日の支援の打ち合わせや前日の申し送りをしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	70%	30%	個人支援記録や業務日誌に記載し情報共有している。	送迎に出るスタッフも多く、終了時間が一定では無いので終了後の振り返りは個人支援記録や業務日誌への記載、翌日の昼礼での申し送りで行っている。また月1回のスタッフ会議でも検討している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援は個人支援記録に記載している。またスタッフ会議での利用者情報共有や個別支援計画の振り返りにも活用している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	利用者全員6か月ごとのモニタリング、支援計画の見直しを行っている。モニタリングの際は毎月のスタッフ会議を通してスタッフ全員で見直しを行っている。	
関係機関や	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	保健師や相談支援専門員と密に連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	地域で盛んに支援会議が開かれており、常に連携しながら支援している。また学校へは保育所等訪問支援を使い支援し、連携を図っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	医療的ケアの実施に関しては必ず主治医に指示書の記載をお願いしている。また病院で実施するカンファレンスには積極的に参加している。	現在は出来ないが、主治医と直接電話で相談できる体制を構築していきたいという希望はある。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	今年度は対象児童がおらず行わなかったが、昨年度など対象児童がいる場合は行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者との連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	2019年度春より保育所等訪問支援事業を開始した。今年度はつかぜ利用児童が小学校や支援学校に入学した際、会議や保育所等訪問支援で引継ぎを行った。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	相談支援やMSW主催のカンファレンスには積極的に参加しており、他事業所との連携を図っている。また重症心身障がい児が主な対象者なので、保健所の研修に積極的に参加しているが、今年度はなかった。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20%	80%	現在は行っていない。保護者のニーズがほとんどない。保護者からの要望があれば検討するが、感染予防やケガ予防の観点から必要性を感じない。	今後行う予定はない。重症心身障がい児が主な対象者なので、体調管理の観点からも感染予防は最重要である為行えない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	はつかぜスタッフが昨年度より箕面市の医療的ケア児等コーディネーターになったので、市の協議の場に参加した。	昨年4月から相談支援事業を併設した。医療的ケア児等コーディネーターもいることから、今後は積極的に協議会へ参加していく予定である。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時に必ずその日の様子を保護者にお伝えしている。また連絡帳で体調、プログラムのときの反応など詳しくお伝えしている。モニタリングでは保護者とともに課題の確認をしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	体調面のアセスメントや対処の方法、装具や制度、遊び方など様々な情報をお伝えしている。	
保護者への説明責任	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	保護者との密な情報収集、様々な職種のスタッフと意見交換した上で個々に合った計画作成を行い、必ず児童発達支援管理責任者から保護者に内容説明を行い、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	6か月に1回のモニタリングの際は事業所での懇談、もしくは電話での懇談で、様々な相談を受けている。また送迎時も相談を受けることがある。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	年に2回、定期的に保護者会を開催している。しかし今年度は7月に1回目を開催し2回目は3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の為中止になった。	保護者アンケートからも要望があると感じており、出来るだけ計画通り実施したいと思っている。コロナ感染症の状況が改善しなければWEBでの開催も検討しなければいけないと認識している。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	常に保護者と一緒に考え、相談しながら支援していきたいと思っている。実際お電話での相談や事業所に来所されての相談は多い方だと思う。これからもいろいろ相談して頂きたいと思っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	HPのブログという形態で1ヶ月の活動報告、次月の活動予定を報告している。月1回の更新情報は連絡帳に記載している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	写真の掲載や支援計画の取り扱いについて保護者と書面で確認している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	支援の際は子どもの意思を感じ、寄り添う支援を心掛けている。またモニタリングの際には十分な時間をかけて保護者と懇談し、意思の疎通を図っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	30%	70%	新型コロナ禍にあり、地域支援行事の開催は難しい状況で昨年度に続き今年度もコンサート等は実施できていない。地域のボランティアさんのご協力でお芋堀りだけはなんとか実施出来た。	新型コロナの感染状況が落ち着いたら、事業所として地域交流の行事などを再開したいと思っている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	マニュアルは作成しており、保護者にお配りしている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	毎年火災避難訓練を消防署の協力を得て行っていたが、今年度はコロナ対策の為、事業所単独で地震避難訓練を行った。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	100%	0%	利用開始前にフェイスシートや子どもの様子をシートに記載してもらおうと同時に聞き取りを行っている。また服薬の変更時や通院情報などもお知らせ頂いている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	現在医師の指示が必要な食物アレルギーがある利用者はいない。	医師の指示書があれば、指示通りの対応をする。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットは積極的に報告されており、毎月の会議で報告、対応策の検討、改善を図っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	外部研修にも積極的に参加している。また毎年事業所内研修を行っており、今年度も3月に実施した。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	身体拘束の同意書を交わし、支援計画にも記載している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。